

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第1回福津市環境基本計画策定委員会	
開催日時	令和7年6月3日（火） 午前10時～	
開催場所	市役所 本館2階 大会議室	
委員名	出席委員 鈴木 慎也委員長・豊貞 佳奈子副委員長 早渕 百合子委員・村上 浩一委員・藤井 美智子委員・ 有田 八郎委員・大庭 也寸志委員 欠席委員 栗田 喜久委員・長濱 幸一委員・濱 由希子委員	
所管課職員職氏名	市民共働部長 香田 知樹 うみがめ課長 占部 賢 うみがめ課主幹 青谷 哲也 環境づくり係長 坂本 剛章 環境づくり係 中村 千聖	
会 議	議題（内容）	報告議案 議題① 第3次福津市環境基本計画の策定について 議題② 福津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について その他
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	0名
	資料の名称	・次第 ・福津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について／第3次福津市環境基本計画の策定について
会議録の作成方針	録音テープ等を使用した要点記録	
	記録内容の確認方法 副会長による署名・押印 署名 ㊟	
その他の必要事項	栗田 喜久委員・長濱 幸一委員・濱 由希子委員が欠席	

審議内容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

○開会のことば 栗田 喜久委員・長濱 幸一委員・濱 由希子委員の欠席報告

○市長あいさつ

○委嘱状交付

○委員長・副委員長互選

福津市環境基本計画策定委員会規則第4条第1項の規定に基づき、委員の互選により、委員長として福岡大学教授 鈴木慎也氏、副委員長として福岡女子大学教授 豊貞佳奈子氏を選出

○委員長あいさつ

○資料確認

○会議録確認

鈴木委員長 福津市附属機関の会議の公開に関する要綱第9条第2項の規定により、会議録確認を豊貞副委員長に依頼

○委員会成立宣言

鈴木委員長 委員10名のうち7名出席。福津市環境基本条例第22条第2項の規定により、本日の委員会が成立

○会議公開の了承確認

傍聴なし

○審議

事務局 議題1 第3次福津市環境基本計画の策定について説明

鈴木委員長 質問やご意見はあるか。

豊貞副委員長 市民アンケートは11月に発信するのか。

事務局 本市経営戦略課による住民意識調査の時期が、11月から12月頃である。この会議を行う中で、どうしても市民に聞いておきたいことが出てきた場合に、2～3問、追加で入れさせてもらう。結果が出るのが3月頃なので、それを骨子案に反映させていきたい。

豊貞副委員長 住民意識調査は毎年やっていて、それに追加するものということか。

事務局	経営戦略課による住民意識調査は、毎年行っている。 今回の計画策定に際し、うみがめ課において市民向けと事業者向けにアンケートをとるが、住民意識調査での追加質問は、これに取りこぼしがあった場合の保険のようなものである。
藤井委員	本計画策定にかかる市民アンケートの対象者は、どのように選ぶのか。
事務局	基本的には無作為で市民1,000人を対象とするが、男性や女性、年齢、郷づくり地域ごとに、広く意見を聴取できるよう対象者を絞っている。 事業所は市内事業所を対象として、200事業所である。
事務局	議題② 福津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について
有田委員	資料P19の再生可能エネルギー導入ポテンシャルの算出方法で、太陽光発電の土地系の項目にある「耕地」は、今、利用している土地ということだが、その上に太陽光パネルを載せるというのは可能なのか。
事務局	耕作をしながら、その上に太陽光パネルを設置して発電し、その電気を耕地でも利用するという取組が日本各地で行われている。
有田委員	実際にはどのくらいの県で行われているのか。
事務局	具体的には把握していない。 まだまだ先進的事例である。農林水産省も進めているが、すべての耕地に太陽光パネルを載せるといような過剰なポテンシャルは期待できない。ただ、このような動きも出てきていると認識いただきたい。
有田委員	耕地の導入ポテンシャルが200MW近くある。建物系の合計よりも多いため、土地系でこれだけポテンシャルがあると言えるのか疑問である。 それよりも、実用化はまだのようだが、フィルム状のペロブスカイト太陽電池を建物系で導入してポテンシャルを上げるような計画の方がよいのではないか。
事務局	今回の計画では、そのようなところも踏まえて検討していきたい。
大庭委員	運輸部門のCO2排出量が減っていないが、ここ数十年で対策は全くなされていないのか。家庭部門のCO2排出量は減ってきていた

	が、最近では人口が増えてきたためか、排出量も増えている。転入してきた人達に対する対策をとる必要があると思う。
事務局	対策はとっているが、それを上回る人口増加となっているのではないか。
大庭委員	運輸部門に関して電気自動車導入などのはっきりした対策を打たないとCO2排出量は下がらない。福津市を走る業者に電気自動車の使用などの条件を付けることができないか。
事務局	目標も大事にしつつ、実現性、実効性のある内容の計画にしていきたい。
豊貞副委員長	人口が増加しているのだから、家庭部門の数字を出すときは、全体の数字を出すと同時に、一人当たりの数字を出せば、パーセントをもう少し大きく見せられる。
早淵委員	家庭部門の排出量の内訳は、何を計上しているのか。
事務局	電気、ガス、灯油も計上している。基本的にはエネルギー統計のデータから持ってきている。
早淵委員	家庭の自家用車の分は、運輸部門に入っているのか。
事務局	自家用車は運輸部門に入っている。
早淵委員	本来、家庭部門も電力の排出係数が下がればCO2排出量が下がっているはずであるが、ガスや灯油の消費量が増えているということか。
事務局	家庭部門のCO2排出量が増えている1番大きい要因は人口増加で、2013年と比べると大体20%ぐらい増えている。一方で電力の排出係数が下がってきているので、これで20%くらい下がっているということで、全体としてあまり変わっていないのではないか。福津市の場合は、省エネルギーというのはまだまだ進む余地はあるのではないか。エネルギー消費量はそこまで下がっているわけではない。
早淵委員	電気だけでなく、エネルギー全体で消費量をまだ減らせようということか。今後、計画を策定していく中で、何を計上しているかが重要になる。市民の努力でできるところと、行政ができるところを明確化することで、計画が分かりやすくなる。

再生可能エネルギーに関しては、導入ポテンシャルであるので、市内のこのような場所に設置が可能であるというような数字でもあるし、戸建て住宅に太陽光パネルを普及させるのであれば、補助の有無やどのくらいの期間でペイするかなど、市民がインセンティブに置き換える際のタイミングを活用する、農地であれば折を見て設置のお願いに行くなど、再生可能エネルギーの種類によってタイムスパンがそれぞれ異なり、それによって計画も変わってくる。

市民がインセンティブを選べる俎上として、日頃からワークショップなどを行うというように紐づけることで、計画の実現可能性が上がると思う。

豊貞副委員長 市民向けアンケートも無作為の1,000人なのか。1,000人だと比較ができる。類似の調査は今まで行ったことがあるのか。

事務局 環境基本計画の二次計画の中間見直しの時も、1,000人を対象に行っている。

豊貞副委員長 何年か前に類似の調査を行っていれば、比較ができるのではないか。

事務局 次の環境基本計画にも結果を反映したいと考えているので、二次計画のアンケートを元に、今回のアンケートを作っている。その時も市民1,000人、200事業所を対象に実施している。

有田委員 アンケートについて、P25の9番目の質問のみマイナスの表現で、それ以外の質問はプラスの表現なので、プラスイメージで統一して、「夏場の暑さ」を「夏場の過ごしやすさ」などに変えた方がよいのではないか。

P26問4の「環境に関する情報を何から得ているか」の設問で、頭から入ってくる情報だけが列記されている。一般の人にとっては、日頃の生活の中で直接五感を通して入ってくる情報がほとんどだと思うので、そのようなものを項目のひとつとして入れてほしい。

P27問5の「4R」が分かりにくいので、日本語で記載した方が一般の人には分かりやすいのではないか。

P31の「どちらでもない」という選択肢は、どのような事業所が丸を付けるのか。「取り組んでいる」「取り組んでいない」の二択でよいのではないか。

P32の問4の動機付けについて、「国や県からの要請」を選択肢に加えてはどうか。

問6は4段階で答えるようになっているが、「実施している」と「実施していない」の二択の方が答えやすいのではないか。

P35問13の「日本」は、他国との比較を行うわけではないので、「我が国」や「国」という表現にした方がよいのではないか。

村上委員

福津市は人口が急増しているのです、一般向けのアンケートはウエイト的にも力を入れた方がよい。

30～40代の人口が増えるのは日本の中でも特殊であり、そこに住まれる市民の環境意識の向上は必須である。

うまく浸透させるために、楽しんでいただくというような形で、ワークショップや環境フォーラムなどを聞いてもらってはどうか。最初は興味のある人しか来ないが、そこから広がっていく。福津市はコミュニティスクールを重要視しているのです、ひとつのテーマとして環境問題を取り扱えば、子ども達の意識も高まり、それを保護者も見に行くので、より広がっていくのではないだろうか。

イオンモールではカーポートに太陽光パネルも設置しているので、例えば、事業者同士で好事例の見学会などをして、お互いに確認し合って広めていくような機会を作ってはどうか。

早淵委員

意識調査やアンケートは手間とコストがかかるので、今回とるのは、計画の進捗を確認するものとして、比較ができるような設計にしてもらいたい。

P25の9番目の質問で、尺度が逆になっていると相関関係の分析に使えなくなるため、設問内容を検討してほしい。

○閉会宣言